

# あることとないことのはざま

— 気配を思考するかたち —

入佐 美南子  
Irisa Minako

宇野 和幸  
UNO Kazuyuki

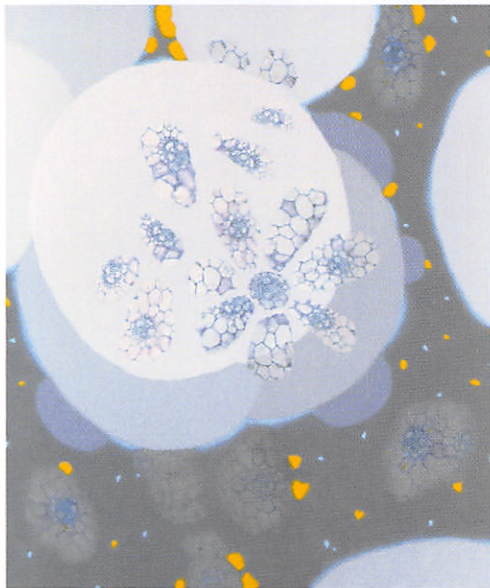
萩原 宏典  
HAGIWARA Hironori

2019年9月20日(金)～10月2日(水)

※9月24日(火)、26日(木)、30日(月)は休廊

11:00～18:00(最終日16:00まで)

オープニングレセプション 9月21日(土) 16:30～



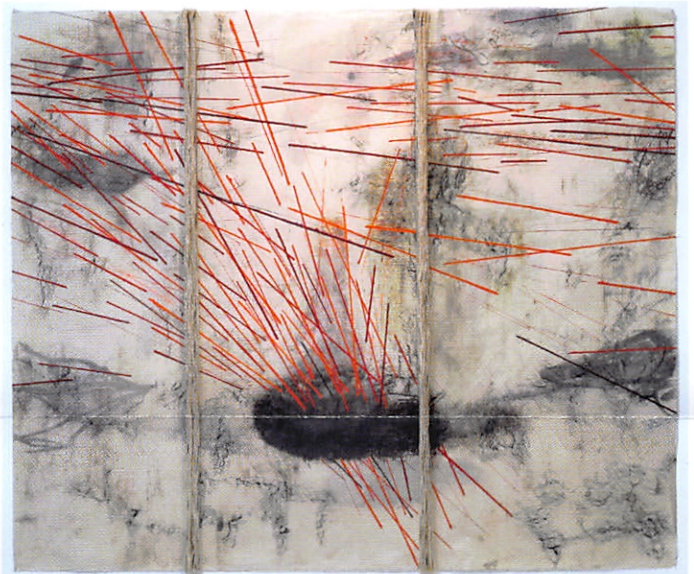
「generation 2016」

キャンバスに油彩、ミクストメディア  
194.0×162.0 cm 2016年

入佐 美南子  
Irisa Minako

「生命の根源、存在、神秘」をテーマとして、油彩を中心にコラージュなどミクストメディアの手法による絵画表現の制作を行っている。

様々な生命体の根源を考えると、その成り立ちや構造に不思議な魅力と神秘を感じる。変容する細胞の形成、生成はイメージの増殖を与えてくれ、そのイメージの形象をもとに、生命体の神秘を感じさせる画面構成の構想が広がる。様々に変容する細胞を生命のエネルギーの根源として、空間に生命体が浮遊している状態や、細胞の中に入り込んだような異空間を表出したいと思う。



「Landscape of vestiges」

和紙にシンナープリント、アクリル、墨、他 98×120 cm 2019年

宇野 和幸  
UNO Kazuyuki

在るとも、無いとも断定できないものたちが世界を構成している。それは気配、あるいはその痕跡として流動的に互いに関係しあうものだ。そこにあるものをこそ私たちは認識し、想像し、体験する。多対多で相互に関わり合う状態を観察する観測点が私(たち)なのだ。世界は気配として存在する。その気配の、形とは呼べないようなかたちを、その触覚を、手探りで追いつけたいと思っている。

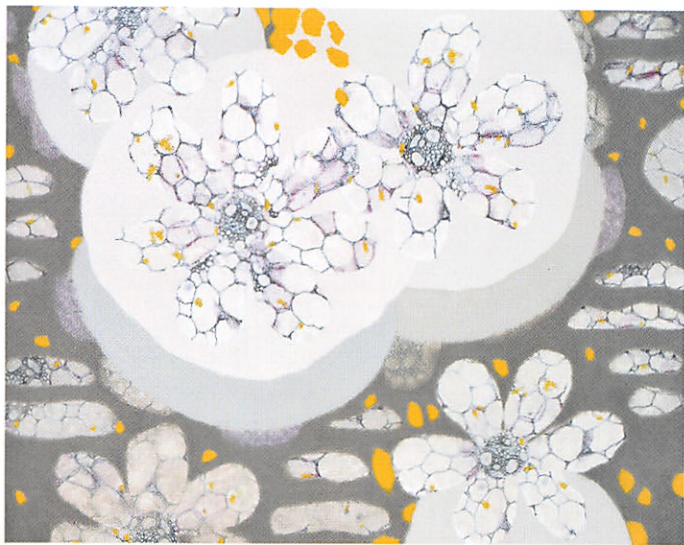
萩原 宏典  
HAGIWARA Hironori



「色彩のクオリア・赤のためのコンポジション」

パネル・和紙・アクリル・ネオカラー・ピグメント 17×40 cm 2018年

初期より抽象的な絵画を描いている。自然の摂理・リズムをテーマにした『タイドグラフ』シリーズを経て、画面を構成する線の延長として様々な素材の棒を画面に貼り付けた『スティックムーブズ』シリーズを制作した。その後は純粋に造形要素の構成と視覚生理の視点から、垂直線と水平線と直角を排除した構成で平衡感覚への刺激を試みた、三角形のシェイプトキャンバスによる『均衡のパラドクス』シリーズを経て、ここ数年はクオリア(感覚質)の記憶をテーマに作品を制作している。自然の中に一人である時にしか感じない様々な感覚や、目を閉じた時に瞼の裏に浮かぶ記憶の融合が作品の源となっている。



「生成 2019-3」 キャンバスに油彩、ミクストメディア 91.0×116.7 cm 2019年

## 入佐 美南子 / IRISA Minako

1953年 鹿児島県生まれ  
 嵯峨美術短期大学(嵯峨美術大学短期大学部)卒業  
 二科展を中心に個展、グループ展、コンクール等で作品発表  
 現在 公益社団法人二科会会員、評議員、嵯峨美術大学 名誉教授

### 〈近年の主な展覧会〉

- 2019年 2019春季二科展(東京都立美術館)  
 退職記念展(アトスペース嵯峨 京都)
- 2018年 第103回二科展(国立新美術館 大阪市立美術館 京都市美術館別館)  
 日中国際交流美術展・招待作家展(千葉県立美術館)  
 思考する視線展(Art Space MEISEI 京都)
- 2017年 第102回二科展(国立新美術館 大阪市立美術館 京都市美術館別館他)  
 日中国際交流美術展・招待作家展(千葉県立美術館)
- 2016年 韓日藝術通信展Art Communications(アトスペース嵯峨 京都)  
 思考する視線展(Art Space MEISEI 京都)  
 第101回二科展(国立新美術館 大阪市立美術館 京都市美術館他)
- 2015年 現在美術の地層2015(京都一清州)(アトスペース嵯峨 京都)  
 第100回二科展(国立新美術館 大阪市立美術館 京都市美術館他)
- 2014年 第99回二科展(国立新美術館 大阪市立美術館 京都市美術館他)  
 思考する視線展(Art Space MEISEI 京都)
- 2013年 ベストセレクション美術2013(東京都美術館)、  
 韓日現代美術交流展2013「疎通の意味」(Schema美術館 韓国)  
 第98回二科展(国立新美術館 大阪市立美術館 京都市美術館他)

## 宇野 和幸 / UNO Kazuyuki

1960年 千葉生まれ  
 東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程満期退学

### 〈近年の主な展覧会〉

- 2019年 「春風ばがさきよりXXI」(長崎ブリックホール 長崎)  
 「U know they mean 2019 -もの・がたる・こと-」(Steps Gallery 東京)  
 「ギャラリー大井選抜展」(ギャラリー大井 大阪)
- 2018年 「存在の触覚」(ヒルトン東京・ヒルトピアアトスクエア 東京)  
 「U know they mean 2018 -痕跡の寡黙/気配の饒舌-」(Steps Gallery 東京)  
 「Art Cocktail 2018」(Steps Gallery 東京)  
 「芸術におけるメディア性と解釈の問題」(アトスペース嵯峨 京都)  
 「日韓藝術通信 part3」(アトスペース嵯峨 京都)  
 「思考する視線2018」(Art Space MEISEI 京都)  
 「デジタル版画展 -版からの解放・版からの展開-」(O美術館 東京)
- 2017年 「観光ART EXPO 2017 京都 -緑・enishi-」(御寺泉涌寺、東本願寺 渉成園 京都)  
 「New Art as Memory and Imagination」(Schema美術館 韓国)  
 「進化する版・変化する版 -デジタル版画展-」(O美術館 東京)  
 「寛容な線たち」(ギャラリー睦 千葉)  
 「日中国際交流美術展・招待作家展」(千葉県立美術館 千葉)
- 2016年 「観光ART EXPO 2016 京都 -新章・開眼-」(御寺泉涌寺 京都)  
 「U know they mean 2016 -線の文脈・面の行間-」(Steps Gallery 東京)  
 「まなざしの系譜」(ギャラリー睦 千葉)  
 「韓日藝術通信 Art Communications」(アトスペース嵯峨 京都)  
 「思考する視線2016」(Art Space MEISEI 京都)  
 「世代を超えて二人展 宇野和幸+野中梓」(K's Gallery 東京)  
 「個展」(巷房 東京)



「Landscape of vestiges」和紙にシンナープリント、アクリル、墨、他 40×27cm 2019年



「クオリアの領域」パネル・アクリル・ネオカラー・ピグメント 72.8×116.7 cm 2018年

## 萩原 宏典 / HAGIWARA Hironori

1968年 千葉県生れ  
 1995年 多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了

1990年より国内での個展、国内海外での国際交流展を中心に作品を発表  
 2003年 SJPスウェーデン大使館展に日本人作家としてノミネート出品  
 2004年 文房堂ギャラリーにて個展  
 2005年 東京国立博物館円山応挙館にて個展  
 2006年～多摩美術大学非常勤講師(2010年3月まで)  
 現在、共立女子大学、東京家政大学、東京デザイン専門学校非常勤講師

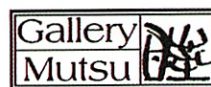
### パブリックコレクション:

日本海洋資源開発公社、Warp & Wool / 横浜、日野自動車シャノン21、  
 (株)田沼/東京、荏原製作所、Panasonic (松下データシステム)/ 横浜、他

## あることとないことのはざま - 気配を思考するかたち -

2019年9月20日(金)～10月2日(水) 11:00～18:00  
 ※9月24日(火)、26日(木)、30日(月)は休廊 (最終日16:00まで)  
 オープニングレセプション 9月21日(土) 16:30～

〒260-0045  
 千葉県千葉市中央区弁天3-8-11  
 TEL/FAX: 043-287-2355  
 URL: gallery-mutsu.com  
 E-mail: info@gallery-mutsu.com



JR千葉駅・千葉公園口より徒歩10分。千葉市中央図書館裏(館内通抜け可)